

大甕小学校通信

平成30年7月2日 第3号
文責：大甕小学校長 林 典行

全国植樹祭 ～ おつかれさまでした ～

6月10日（日）、時折小雨の交じる中、全国植樹祭が本校学区（雫地区）において、天皇陛下、皇后陛下のご臨席を仰ぎ、開催されました。福島県での開催は、実に昭和45年以来とのことです。会場には、関係者及び観覧者、およそ8,000人余りが参集しており、肌寒い天候にもかかわらず、人の熱気が感じられました。

大甕小学校からは、緑の少年団として、5・6年の児童21名が参加し、苗木の贈呈、各国大使等来賓植樹の補助、緑の少年団代表メッセージの発表等の役割を担いました。苗木の贈呈、代表メッセージでは、代表児童がマイクを通して会場中に大きな声を響かせメッセージを発表しました。子どもたち一人一人が、大勢の人々の前でも臆することなく堂々と臨んでいる姿にふれ、非常に誇らしく思った次第です。

子どもたちは、全国植樹祭を迎えるまで4月より、式典リハーサル・総合リハーサル・荒天リハーサル・前日リハーサルと数多くのリハーサルに参加しなければなりません。休日であっても愚痴をこぼさず、1日を通して練習に取り組んできた子どもたち、そして当日、自分の役割をしっかりと果たすことのできた子どもたち、本当におつかれさまでした。



緑の少年団代表メッセージ

私たちは、南相馬市立大甕小学校緑の少年団です。
七年前、東日本大震災により高さ十メートルを超える大津波が福島県をおそいました。
海沿いにあった私たちの学区も大きな被害を受け、流されてしまった集落がたくさんあります。
あの日、多くの方々が津波によって尊い命を失いました。
海岸にあった松林も、根こそぎ流されてしまいました。
今、福島県はみんなで力をあわせ、震災を乗り越え、前を向いて一歩ずつ歩みを進めています。
私たち緑の少年団も、木を植え、まちの緑を増やし、失われた森を育てていくことで、みどり豊かなふるさとをつくる活動を続けていきます。
本日、みんなで植えたこの苗木をこの地から全国の森づくりの輪を広げる「希望の森」「いのちの森」として守り、育て、未来に引き継いでいきます。

大甕地区民生委員学校訪問

6月18日（月）、大甕地区の民生委員・主任児童員の皆様、大甕生涯学習センター所長さんが来校し、子どもたちの学習や生活の様子を参観されました。

子どもたちが進んで挙手して発表している様子、先生が丁寧に授業を進めている姿に対し、お褒めのことは頂戴しました。



平成32年度より新学習指導要領という学

校教育の基本となる基準が改定されます。そこでは、学校・家庭・地域が相互に関わりあって教育を進めることができるよう計画を策定しなければならないことが示されております。

平成30年度から31年度はその準備期間ですが、可能な限り地域・家庭とのパイプを太くしていければと考えております。

7月の主な行事予定

6日(金) 七夕集会
9日(月)～11日(水) 被ばく検診
19日(木) 美化活動
20日(金) 終業式 給食なし